



## 猪口邦子大臣が語る 『21世紀の 消費者対応、 消費者教育』

昨年9月の衆議院選で初当選し、10月の第3次小泉内閣にチルドレンから唯一入閣した猪口邦子内閣府特命担当大臣。上智大学教授から華麗なる転身をはかり、国政に邁進している姿は、いまさら説明の必要はないだろう。また、内閣府特命担当大臣ということは、内閣府の外郭団体である当ACAPをも所管する立場にあるということである。「人間 猪口邦子像」に迫るべく、首相官邸の向かいにある内閣府3階の大臣室を訪ね、お話を伺った。

(2006年7月4日収録)

インタビュー・文/事務局次長 清水きよみ

—こんにちは、お忙しいところお邪魔します。国際政治学者から、軍縮大使、国会議員、大臣へと転身し、劇的な変化のようにも見えますが、ご自身の中では、どのように捉えていらっしゃるのでしょうか？

**猪口**：政治学を専攻したのは、より良い人間社会を作るためには政治的に解決されるべきことが多いのでは、と思ったからです。

また、中高は女子校でしたが、女子教育に生涯を捧げる情熱的な教師の生き方に触れ、学問で自分の専門性を深め、それを職業にできる、ということに救いを見出しました。

—海外での生活経験も、現在のご自分に影響していますか？

**猪口**：子供の頃に、父の転勤でブラジルで過ごしましたが、異文化の境界線を行き来したことで、軍事クーデターを経験したことが、大きな影響をもたらしています。

当時のブラジルは、民主主義国家でしたが、マクロ経済運営に失敗し、ついに軍事政権に転落するのを目の当たりにしました。民主主義が崩壊するのはどういう瞬間か、これが私の社会科学的な最初の自問となり、後に、エール大学院留学中に「民主主義の崩壊するとき～ラテン・アメリカの場合～」とい

う論文を書きました。民主主義を当然のものとして受け止めてはいけなさと強く感じました。

—大臣としての今はいかがですか？

**猪口**：内閣府の特命担当大臣として、少子化、男女共同参画、消費者政策等を受け持っていますが、これは、脆弱なる市民層のための正義をいかに実現できるか、という社会政策の本質部分の仕事なので、無理なくテンションを高く持つことができます。民主主義の脆弱性や希少性をずっと追求したいという12歳のときから始まった私の本質に関わる探求でもあります。

—民主主義の探求という意味では、学者でも大臣の立場でも同じということですね。

**猪口**：20世紀は、強い者と政治勢力が手を結び、国民国家の底上げを一気に競うという経済力強化の時代でした。冷戦終結後の21世紀の国家像は、最も脆弱なる者の立場に立つことが政治権力の基本になります。グローバリゼーションの進化で、国家の機能は衰退すると言う人もいますが、そうではありません。脆弱なる人々、女性やマイノリティに対して十分な手当ができていなければ、国際的な支援や国連からの勧告がきます。だから国として、きちんと

した政策をとらなければ国際的な恥になります。現在の私の担当分野、たとえば、若者、家族、高齢者、消費者、障害者、女性、犯罪被害者などはすべて脆弱なるグループに属します。日本として先進民主主義国の水準にふさわしい政策をとるよう、大臣としてもしっかり取り組む必要があるので、21世紀の最先端の仕事をしているとも言えます。

## 消費を通じて 社会を変えることができる

—消費者教育について感ずるところは？

**猪口**：すべての人は消費者なので、消費者教育は、大切な生涯学習だと思います。消費という活動は、その時代の新しい文化や考えを自分の生活の中に取り込むという知的でわくわくする行為で、人間社会の発展とともにある大切な活動です。そういう活動に関連して、だまされたり、不当な行為の対象にならないような防御力も必要で、義務教育の中でもきちんと伝えるべきです。昔なら周りの人との生活の中から自然に学んだことですが、今は、マスメディアが私たちの消費行動に影響を与えるようになっていきます。情報過多で刺激も多い中で、流行に流されることなく、自分の生活との調和を考えながら、自分の目で物を選ぶという行為が大切です。

それから、消費という行為を通じて新しい時代の推進に関わることもできます。たとえば、環境に配慮した消費者でありたいと考えて物を選ぶ人が増えれば、環境に配慮しないものは売れなくなります。また、価格や品質などの条件が同じなら、脆弱な

人々に配慮している会社、ファミリーフレンドリーな会社、子供のいる女性が働きやすいとか男女共同参画を推進している会社の製品を買うというように、自分が展望する人間社会の姿に近い企業の商品を選ぶ。そうすれば、その企業が競争社会の中で勝ち残り、我々は、消費活動を通じて自分の望む社会の実現に寄与することができます。

—消費は、選挙の票と同じで、お金をどれに投じるかによって社会を作っていくという活動ですね。

**猪口**：その通りです。選挙では、自分の一票は匿名だけれども、その累積で民主主義社会の水準が出る。消費についても、一つ一つの買い物を通じて、自分の望む社会の実現に寄与することができるのです。そして、消費活動は、生涯ずっと反復的に続く行為ですから、そこから学んで賢い消費者にならなければなりません。消費活動という経験を積み重ねた年配の消費者が、本来は消費者のリーダーになるべきなのに、だまされたり、悪徳商法にひっかかりやすい脆弱な人々になっているのは残念なことですね。だまされてしまうのには、その裏にある消費者の孤独とか、いろいろな問題も考えなくてははいけません。人間のつながりが希薄になったときに、何かにすがりたい、何かの部分でありたい、という人間としての弱さがあるわけです。近代（モダン）では、人間を、自立した強いものと理想化しましたが、ポストモダンの今、人間は、相互依存の存在です。高齢者の被害も、心理の弱さにつけこまれ、つながりが途切れたところで起きます。なぜそういう心理状態に追い込まれるのか、そういう人間社会をどのように改善できるかを考えることが、実は消費者教育の本質かもしれないです。

—ACAPでは、消費者教育への一助として、消費者問題に関する「わたしの提言」を募集しています。

**猪口**：消費者教育は、生涯学習の一環なので、義務教育だけではなく人生のどの段階でも考えるきっかけがあることはよいことだと思います。標語や提言募集などの、賞を与える活動というのは、人間の社会意識を刺激することになるので重要です。参加することにより、その人の消費者意識も高まるし、周りの人たちにも影響を与えるので、そこから広がりができます。「わたしの提言」に、たくさんの方が応募してくれると良いですね。

## 予防アプローチ時代の 企業内改革者たれ！

—ACAPは、企業内の消費者対応のプロ集団の組織として、消費者・行政・企業間の架け橋になること



を使命としています。

**猪口：**異業種交流、情報交換などを通して、消費者の特質や、業種横断的に留意しなければならないことなどをお互いに学び、視野を広げることができます。そして、企業内の担当部門は、消費者からの苦情や、よき企業であるようにという圧力に対し、直接自分の企業に影響力を発揮し、予防的に動いていくべきだと思います。20世紀は、対処療法の時代で、問題が起きてから激しく対応するというやり方でしたが、21世紀は、予防的アプローチの時代です。

—消費者からきた声を社内に発信し、商品開発やサービスの向上にも生かすということですね。

**猪口：**より早く、よりよい物を消費者に提供することができ、市民社会の中で認められる企業になります。企業の中にいるということは、改革者たりうるということです。私は、全共闘世代の下の世代ですが、彼らが激しく戦う姿を見て、同じ主張を体制の中から主張して改革することができるのではないかと、思った世代です。昔さんには、企業内からの改革者としても頑張ってもらいたいと思います。

—大変お忙しいと思いますが、ご自身は、どんな消費者ですか？

**猪口：**いまは、「消費者」としての時間はなかなか取れませんが、少しの時間でも工夫しています。週末に、地方公務員に行き、少し空いた時間などに、文化活動だと思って買い物をしたりする時間がとても嬉しくて、純粋な気持ちで真剣に選んだりしています。

—買い物に行く時間がない分、ネットショッピングにはまっているとか？

**猪口：**それはいいですね。私にとって、コンピュータは、表現の主題、書くためのもの、調べるためのもの、つまりアウトプットの手段になっています。

## 美のバレエストレッチ 思索のランニングマシーン

—若さと健康を保つ秘訣は、何でしょうか？

**猪口：**バレエストレッチです。これは、クラシックバレエと、ストレッチを組み合わせたNY発信のエクササイズですが、大使時代に始めました。学者の頃は、何日も部屋にこもって書物やコンピュータに没頭するという生活でしたが、大使としてヨーロッパに行き、国際交渉の前面に立つことになりました。その時に、交渉を成功させるには、自分自身を奮い立たせて高揚させる必要があるし、外面的にも女性は颯爽と美しくあるべきと思いました。年をとってくると引力すなわち重力に逆らうためにも、自分で努力する必要がありますが、そういう意味でバレエストレッチはとていいのよ。ヨガは動作が美しくないけど、女性美を極めるのがバレエなので、体を伸ばしつつ、美しい動作も引き出されるので、特に女性にお勧めですよ。ヒールも疲れなくなるし…。

—ランニングマシーンもなさっているそうですね。

**猪口：**そうなの。散歩が好きだったけれど、大臣になって警備などで気軽に歩けなくなったので、ランニングマシーンを買い、家で歩いています。やってみたら、これほどすばらしいものはない。血行がよくなり、アイデアがどんどん浮かびます。物事の解決法は、ランニングマシーンから生まれるといっても過言ではないくらいなのでマシーンにメモ帳を張っておいて、すぐ書きとめています。

—お話は尽きませんが、そろそろお時間が…。これからどうぞ頑張ってください。今日はありがとうございました。

**猪口：**おしゃべり楽しかったわ。こちらこそありがとう。

●経歴●  
1952年生  
上智大学卒業後、エール大学政治学博士号取得  
1990年 上智大学法学部教授  
2002～2004年 軍縮会議日本政府代表部特命全権大使  
2005年9月 衆議院議員  
2005年10月 内閣府特命担当大臣（少子化、男女共同参画担当）  
●主な著書●  
『戦争と平和』（東大出版会1989年）  
『政治学のすすめ』（筑摩書房1996年）  
『戦略的平和思考』（NTT出版2004年）  
●受賞歴●  
1989年 吉野作造賞受賞  
2003年 エイボン女性大賞



猪口大臣（左）、ACAP清水次長（右）